

第 184 号 発行日 平成 24 年 4 月 25 日

# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

この世で生きてゆくということは、  
損得勘定じゃあない。  
短い一生なんだ、自分の生きたい  
ように生きるほうがいい。

山本 周五郎  
(作家)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ  
いただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

## 子どものタイプ別対処法

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言  
ってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これま  
で育ててきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入ってい  
かない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



### 「勉強不適合タイプ」～勉強という行為が性格的に合わない子ども

子どもたちが勉強をするときは、長時間椅子に座り、体を動かすことは許されず、ひたすら本  
やテキストを読んで、考えることに集中しなくてはなりません。とても元気で全身にエネルギー  
が満ちあふれている子どもたちにとっては非常に酷なことだといえるでしょう。

また、子どもたちは毎日学校へ行き、朝の 8 時半から夕方 4 時まで、ほんの 10 分程度の休憩  
を挟んで、教室の自分の座席でじっと授業を聞き続けなければなりません。それに、教師のタイ  
プの多様化や資質の低下などが社会で問われているように、すべての先生の授業が楽しく有用だ  
とは限りません。

そのような中で、ほんのわずかな時間もじっとしてられない。姿勢が悪く、態度が悪く、先  
生を困らせてばかりいる。そんな子がいたとしても、不思議でも、異常でも、あってはならない  
ことでも、何でもありません。

こんなタイプの子どものを、積極的に勉強に向かわせるには、かなり難しいのではないかと思  
います。けれども、どうしても克服させてあげたいのなら、また、子ども本人が何とか克服したい  
と思っているなら、その方法はただひとつです。

以前お話しした、勉強を最小単位に分解した行為のひとつひとつを、自覚をもってしっかりと  
やっていく以外にありません。このタイプの子がそう簡単には勉強するようにはならないだろう  
という予測は誰にでもできますが、それでも「勉強の最小単位」という概念を、意識の中に持っ  
ているか、持っていないかでは、克服できる可能性はずいぶん違ってきます。

勉強という行為の最小単位。これは、たとえて言うなら成功の道を登って行く一步一步の階段  
です。

あなたのお子さんの前に階段があるとすると、あなたのお子さんは乳幼児ではなく中学生です  
から、その階段を自力で登ることができます。

問題は、その子が目の前の階段を一步一步上がるか上がらないかです。たったそれだけのことで、何かしらほんのちょっとした意識改革ができれば、どんなお子さんでもすぐにやれるはず。

とくに、じっとしてられない、だから勉強が嫌いだという子は、エネルギーはたくさん持っていますから、その気になれば、簡単に登りはじめることができます。

では、その意識改革とは、どんなことでしょうか。それは先にお話しした「親子の会話から生まれた目標設定」ではないでしょうか。

「この目標を達成するとこんなにいいことがある」と、頭に描くことができれば、子どもはその目標を達成しようと、行動の第一歩を踏み出すことができます。でも今は、それを上って頂上へ行き着くとこんなにいいことがあるのかわからないので、一歩だって上る気にはならないのです。

「2時間も3時間も、正しい姿勢で座る。そんなことは、僕はいやだ。けれども、これをやると、こんなに楽しいことが待っているのなら、頑張ってみようじゃないか」

「分からないことがあったらいちいち辞書を引くなんて僕は嫌いだ。でも、これをやることで、こんなにうれしい結果が得られるのなら、頑張ってみようじゃないか」

このように、やる気になって、階段を一步一步昇り出すことができます。

勉強という行為を、階段のように最小単位に分解して「これなら僕にも上れる」と感じさせてあげる。

これを上っていくとこんなに楽しいことが待っている。

これら二つは、車の両輪のようなもので、相乗効果を生み出します。これらが伝わり、自分の考えとしてしっかりと定着したときに、あなたのお子さんは、あっという間に「進んで勉強する子」に変わります。

・・・次号に続く。